

## 調査報告

## 「進路意識調査」の結果報告

## － 2010年調査の結果および2009年調査からの経年変化について－

教育学研究科生活システム系教育  
園田菜摘

## I はじめに

教育人間科学部学校教育課程の学生を対象に、2010年進路意識調査を行った。その結果を下記に報告し、さらに2009年調査からの経年変化についても分析を行っていく。

## II 2010年調査の概要

## 1 調査対象と調査時期

対象となったのは、教育人間科学部学校教育課程に在籍する、一般入試、推薦入試、AO入試の各入試区分の学部生である(表1)。2010年度2～4年生については2010年1～2月(2009年度1～3年生の時点)に調査を実施し、2010年度1年生については2010年5～6月に調査を実施した。

表1 調査対象の内訳

2010年度の学年 (入学年度)	入試区分ごとの対象者数			合計
	一般	推薦	AO	
1年生(2010)	164 [170]	41 [42]	24 [24]	229 [236]
2年生(2009)	148 [174]	33 [40]	22 [22]	203 [236]
3年生(2008)	130 [163]	37 [41]	27 [31]	194 [235]
4年生(2007)	167 [175]	40 [40]	28 [30]	235 [245]

[ ]内は在籍数

## 2 調査方法

専門領域ごと、または授業等を通して質問紙の配布・回収を行った。質問紙の項目は表2の通りであり、記名式で回答を求めた。なおGPAについては、通期および半期ごとのALL GPAデータを使用した。

表2 調査の質問内容

設問	質問内容	回答形式
①	専門領域(1年生は希望する専門領域)	選択肢
②	取得を希望する教員免許	選択肢(複数回答)
③	教員への就職希望(教員として就職したいと思うか)	選択肢(5段階評定)
④	就職を希望する学校種	選択肢
⑤	教員以外の進路	選択肢

## 3 調査結果

## 3-1. 教員への就職希望について

教員への就職を希望するかについて、「とてもそう思う」から「そう思わない」までの4段階で尋ねた。その結果を学年ごとに示していく。

## ① 2010年度1年生

2010年度1年生については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると8割の学生が教員への就職を希望すると回答しており、希望する割合が高いことがわかる(図1)。入試区分別に見ると、推薦入試とAO入試の学生の方が一般入試の学生よりも教員への就職希望が高いことがわかる(図2)。

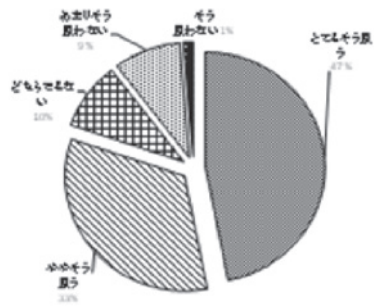


図1. 1年生の教員就職希望 (全体)

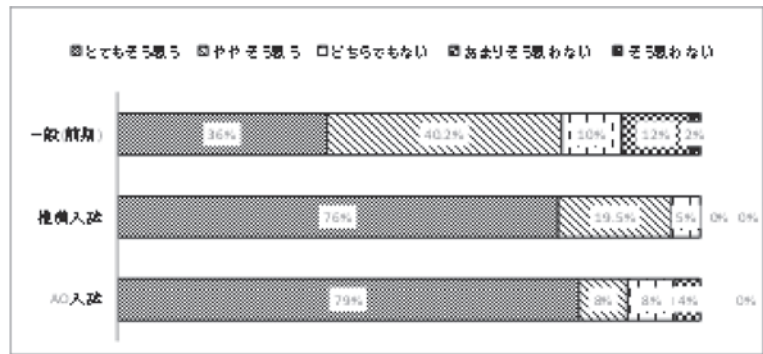


図2. 1年生の教員就職希望 (入試区分別)

② 2010年度2年生

2010年度2年生については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて約7割の学生が教員への就職を希望すると回答していた(図3)。入試区分別では、

推薦入試、AO入試の学生の教員への就職希望がやや高いが、入試区分による差はそれほど大きくないことがわかる(図4)。

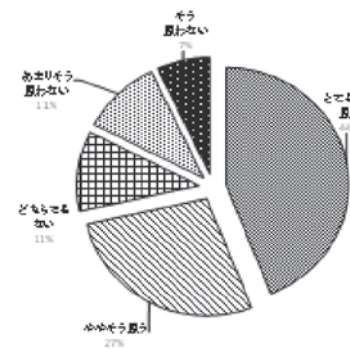


図3. 2年生の教員就職希望 (全体)

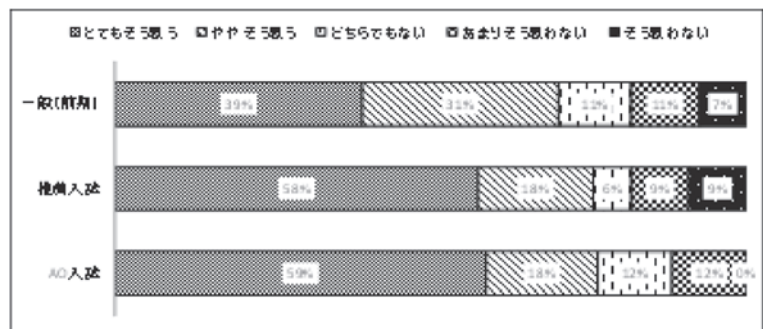


図4. 2年生の教員就職希望 (入試区分別)

③ 2010年度3年生

2010年度3年生については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると教員への就職を希望する学生は67%となり、7割を切っていた(図5)。入試区

別に見ると、推薦入試とAO入試の学生の教員への就職希望は8割を超えているが、一般入試の学生は58%と希望する割合が低いことがわかる(図6)

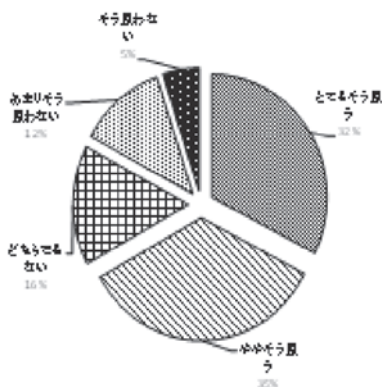


図5. 3年生の教員就職希望 (全体)

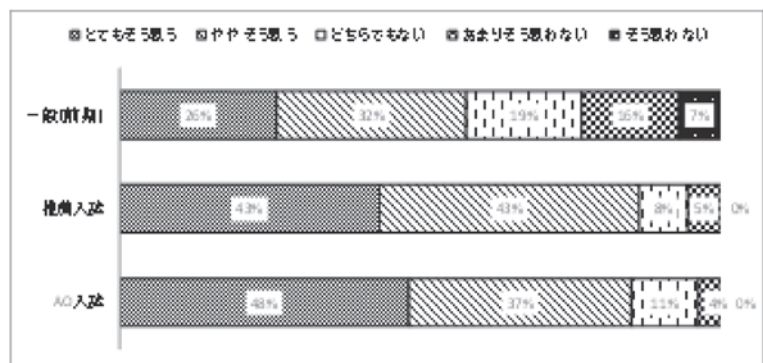


図6. 3年生の教員就職希望 (入試区分別)

④ 2010年度4年生

2010年度4年生については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると約7割の学生が教員への就職を希望すると回答していた(図7)。入試区分別に

見ると、AO入試の学生の教員への就職希望が9割以上と非常に高く、続いて推薦入試、一般入試の順だった(図8)。

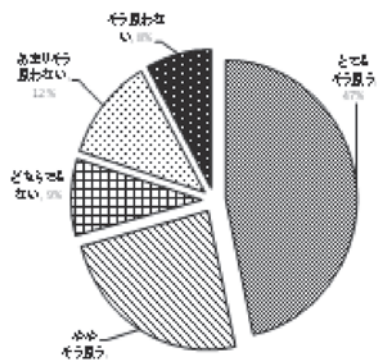


図7. 4年生の教員就職希望 (全体)

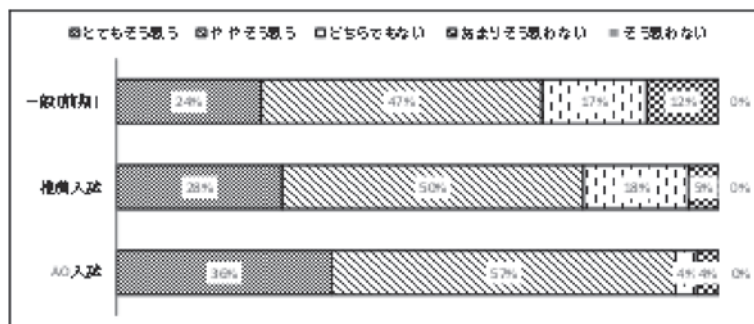


図8. 4年生の教員就職希望 (入試区分別)

以上の結果をまとめると、教員への就職希望は2010年度1年生では8割と高いが、2010年度2～4年生では6～7割程度であり、学年による違いがあっ

た。また、入試区分別では、推薦入試とAO入試の学生の教員への就職希望が一般入試の学生よりも高い傾向にあることがわかる。

3-2. 教員以外の進路希望について

教員以外の進路を希望する場合、その志望先について尋ねた。その結果を、各学年の入試区分別に表3～表6に示す。

その結果、教員以外の進路先として、「大学院」と「教育関連以外の企業」の希望が比較的多かった。

一般入試では、2010年度1～4年生とも「教育関連以外の企業」を希望する学生が2～3割程度存在していたが、推薦入試、AO入試の学生でも2010年度4年生(調査時点では3年生)では教員以外の進路として「教育関連以外の企業」が最も多かった。

表3. 1年生の教員以外の志望先 (入試区分別)

回答	比率 (人数)		
	一般	推薦	AO
大学院	15.9%(21)	36.0%(9)	13.3%(2)
司書	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
学芸員	3.8%(5)	4.0%(1)	0.0%(0)
心理職	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
保育園・幼稚園	3.8%(5)	12.0%(3)	26.7%(4)
教育関連企業	21.2%(28)	8.0%(2)	26.7%(4)
教育関連公務員	12.9%(17)	24.0%(6)	20.0%(3)
福祉医療	6.1%(8)	0.0%(0)	0.0%(0)
教育関連NPO	1.5%(2)	0.0%(0)	6.7%(1)
教育以外の公務員	10.6%(14)	12.0%(3)	6.7%(1)
教育以外の企業	19.7%(26)	0.0%(0)	0.0%(0)
その他	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)

表4. 2年生の教員以外の志望先 (入試区分別)

回答	比率 (人数)		
	一般	推薦	AO
大学院	15.9%(21)	36.0%(9)	13.3%(2)
司書	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
学芸員	3.8%(5)	4.0%(1)	0.0%(0)
心理職	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
保育園・幼稚園	3.8%(5)	12.0%(3)	26.7%(4)
教育関連企業	21.2%(28)	8.0%(2)	26.7%(4)
教育関連公務員	12.9%(17)	24.0%(6)	20.0%(3)
福祉医療	6.1%(8)	0.0%(0)	0.0%(0)
教育関連NPO	1.5%(2)	0.0%(0)	6.7%(1)
教育以外の公務員	10.6%(14)	12.0%(3)	6.7%(1)
教育以外の企業	19.7%(26)	0.0%(0)	0.0%(0)
その他	1.5%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)

表 5. 3 年生の教員以外の志望先（入試区分別）

回答	比率（人数）		
	一般	推薦	AO
大学院	14.2%(17)	20.7%(6)	35.0%(7)
司書	0.8%(1)	3.4%(1)	0.0%(0)
学芸員	0.8%(1)	6.9%(2)	0.0%(0)
心理職	0.8%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
保育園・幼稚園	2.5%(3)	6.9%(2)	0.0%(0)
教育関連企業	16.7%(20)	10.3%(3)	25.0%(5)
教育関連公務員	9.2%(11)	10.3%(3)	20.0%(4)
福祉医療	3.3%(4)	0.0%(0)	0.0%(0)
教育関連 NPO	1.7%(2)	3.4%(1)	0.0%(0)
教育以外の公務員	16.7%(20)	6.9%(2)	5.0%(1)
教育以外の企業	31.7%(38)	27.6%(8)	15.0%(3)
その他	1.7%(2)	3.4%(1)	0.0%(0)

#### 4 GPA について

2010 年度 1～4 年生の GPA について、入試区分別の平均値を表 6 と図 9 に示す。なお、1 年生は 2010 年度前期のみ、2～4 年生は 2010 年度前期までの通算である。

どの学年も、推薦入試の学生は一般入試、AO 入試

表 7. GPA の平均値（入試区分別）

学年	GPA 平均値（人数）		
	一般	推薦	AO
2010 年度 1 年生 (2010 年度入学)	3.05 (170)	3.19 (42)	3.09 (24)
2010 年度 2 年生 (2009 年度入学)	3.08 (173)	3.27 (40)	3.06 (22)
2010 年度 3 年生 (2008 年度入学)	3.31 (161)	3.47 (41)	3.31 (31)
2010 年度 4 年生 (2007 年度入学)	3.39 (174)	3.49 (40)	3.45 (29)

### III 2009 年調査と 2010 年調査の経年変化

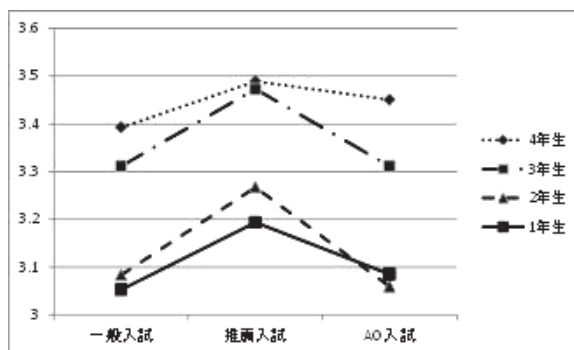
2009 年調査 (2009 年度 1～3 年生) と 2010 年調査 (2010 年度 2～4 年生) から、教員への就職希望の経年変化について分析を行った。ただし、2009 年調査では教員への就職希望について学生に「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 段階で尋ねているのに対し、2010 年調査では「どちらでもない」を加えた 5 段階で尋ねている、といった違いがある。そこで今回の分析では、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて「志

表 6. 4 年生の教員以外の志望先（入試区分別）

回答	比率（人数）		
	一般	推薦	AO
大学院	31.3%(40)	24.0%(6)	23.1%(3)
司書	0.0%(0)	0.0%(0)	7.7%(1)
学芸員	1.6%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
心理職	1.6%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)
保育園・幼稚園	3.9%(5)	0.0%(0)	7.7%(1)
教育関連企業	12.5%(16)	16.0%(4)	15.4%(2)
教育関連公務員	3.1%(4)	4.0%(1)	0.0%(0)
福祉医療	0.0%(0)	4.0%(1)	0.0%(0)
教育関連 NPO	0.8%(1)	0.0%(0)	0.0%(0)
教育以外の公務員	7.8%(10)	4.0%(1)	7.7%(1)
教育以外の企業	31.3%(40)	44.0%(11)	38.5%(5)
その他	7.8%(10)	4.0%(1)	0.0%(0)

の学生と比較して相対的に GPA の平均値が高い傾向にあった。また、全体的に 3、4 年生の方が 1、2 年生よりも GPA の平均値が高かったが、これは通算の GPA であるため学年による履修科目の違いが影響したと考えられる。

図 9. 入試区分別 GPA の比較



望あり」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせて「志望なし」とし、2009 年調査と 2010 年調査で学生がどのように回答を変化させたかについて、「志望あり→志望あり」「志望なし→志望あり」「志望なし→どちらでもない」「志望あり→どちらでもない」「志望あり→志望なし」「志望なし→志望なし」のそれぞれの項目に分類し、1 年間の推移について示すことにする。学年ごとの入試区分別の結果を図 10～図 12 に示す。



教員への就職希望が維持されていることを示す「志望あり→志望あり」の割合について、最も高かったのが図 11 の 2010 年度 3 年生の推薦入試の学生 (86%) だったが、一般入試の学生は推薦入試、AO 入試の学生と比較してどの学年も低い傾向にあり、5～6 割程度だった。2009 年調査 (教育デザイン研究 第 1 号, 2010) でも一般入試の学生の教員への就職希望の割合は低かったが、それに加えて 1 年の間に「志望あり→どちらでもない」「志望あり→志望なし」へと推移した割合がある程度存在している (1～2 割程度) ことが今回の分析で示された。また、教員への就

職「志望あり→志望なし」への推移について、一般入試と推薦入試の学生ではどの学年でも 5%～15% 程度見られたのに対し、AO 入試では 0% という特徴がみられた。それとは逆の教員への就職「志望なし→志望あり」への推移は、2010 年度 2 年生と 3 年生では 0%～4% と低いですが、2010 年度 4 年生の一般入試と推薦入試の学生ではどちらも 1 割ほど存在しており、実際に就職を考える時期になると教員への就職希望に転向する学生がいることが示された (2010 年度 4 年生の調査を行ったのは、3 年生の冬の時点である)。

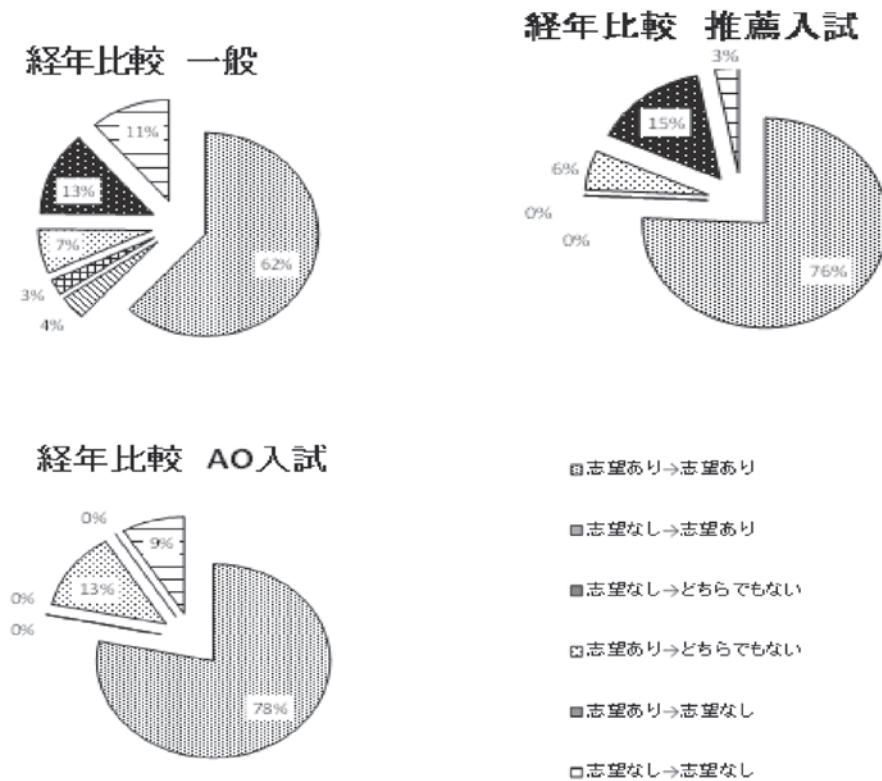
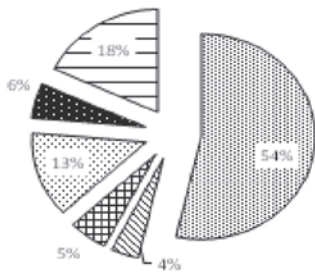
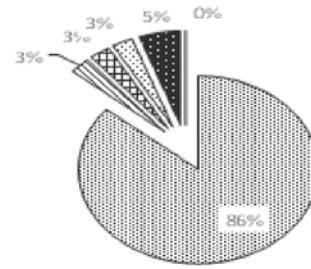


図 10. 2009 年度 1 年生から 2010 年度 2 年生の推移 (入試区分別)

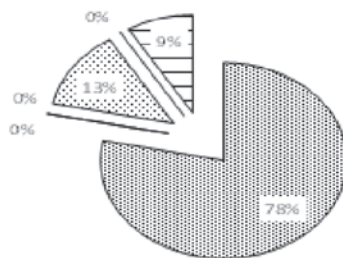
経年比較 一般



経年比較 推薦入試



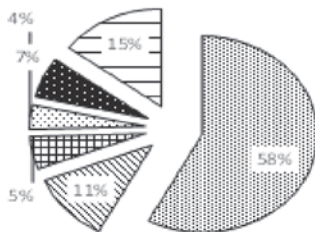
経年比較 AO入試



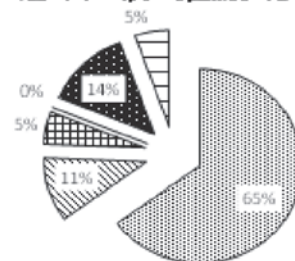
- 志望あり→志望あり
- 志望なし→志望あり
- 志望なし→どちらでもない
- 志望あり→どちらでもない
- 志望あり→志望なし
- 志望なし→志望なし

図 11. 2009 年度 2 年生から 2010 年度 3 年生の推移 (入試区分別)

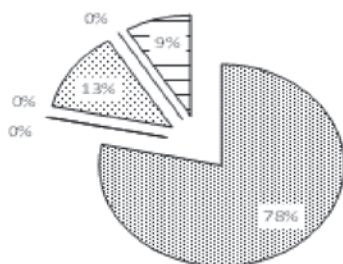
経年比較 一般



経年比較 推薦入試



経年比較 AO入試



- 志望あり→志望あり
- 志望なし→志望あり
- 志望なし→どちらでもない
- 志望あり→どちらでもない
- 志望あり→志望なし
- 志望なし→志望なし

図 12. 2009 年度 3 年生から 2010 年度 4 年生の推移 (入試区分別)

#### IV まとめ

以上の結果をまとめると、学校教育課程の学生の進路先として教員を希望する割合は1年生ではある程度高いが、2～4年生では1年生と比較すると低い傾向があることがわかった。また、入試区分によっても学生の進路意識は異なっており、推薦入試、AO入試の学生と比較すると一般入試の学生の教員への就職の意識が低いという結果だった。同様の傾向については2009年調査（教育デザイン研究 第1号，2010）でも指摘されているが、今回の調査で行った経年変化の分析から、1年後に教員への就職「志望あり→どちらでもない」「志望あり→志望なし」へと変化する学

生の割合を入試区分ごとにつかむことができた。教員への就職「志望なし→志望あり」への推移の割合は概して低かったため、教職に就くことに対する学生の意識変化の原因を探ることが今後の大きな課題となるだろう。特に「志望あり→志望なし」へと大きく方向転換した学生について、その変化の要因を探ることが重要である。

今後も継続してこのような進路意識調査を行っていくことで、進路に対する入学時の学生の意識と4年間の変遷について詳細に把握していくことが必要であると考える。